

最高気温が30℃を超える日の多量かん水による

夏秋ピーマンの尻腐れ果対策法

農業研究部 トマト・ピーマンチーム

本県のピーマン産地では、近年高温化により尻腐れ果の発生が増加しており、収量・品質が低下する原因になっている。そこで、尻腐れ果率軽減に有効なかん水方法について明らかにしたので紹介する。

【普及したい技術のポイント】
 ①最高気温が30℃を超えると予想される日に、8～9 t/10aの多量かん水を行うことで尻腐れ果の発生率を軽減できる。

【研究成果の内容・留意点】

1. 気温と尻腐れ果率

尻腐れ果の発生は最高気温が概ね30℃を超えると増加する傾向がある(図1)。

2. かん水方法と尻腐れ果率

通常は1日当たり3～5 t/10aのかん水を行うが、気象予報で最高気温が30℃を超えると予測される日に、1日当たり8～9 t/10aの多量かん水を行うことで、尻腐れ果の発生を抑える事が出来る(図2)。

3. かん水方法と収量性

最高気温が30℃を超えると予測される日に、多量かん水を行うことで、尻腐れ果が減少し、可販果収量が多くなる(表1)。

4. 利用上の留意点

- ①多量かん水を行う際は2～3回(1回2～3t)に分けて行う。
- ②本技術は、水はけが良い黒ボク土のは場を対象とする。

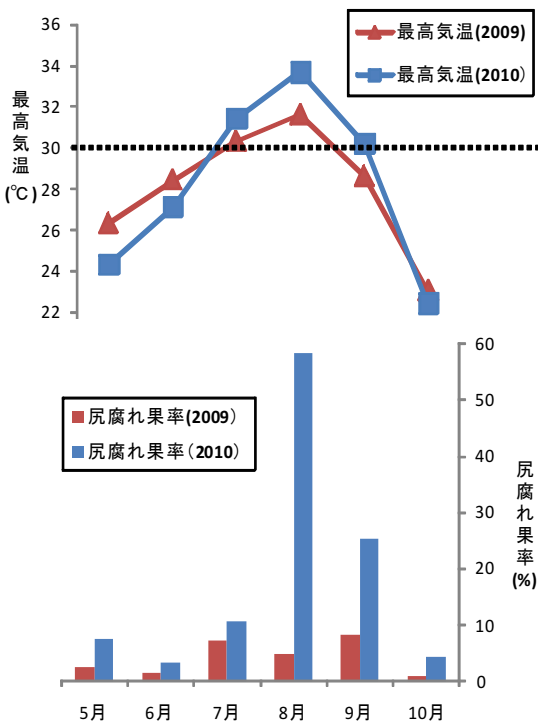


図1 月別尻腐れ果率と最高気温
 注)尻腐れ果率は、収穫果数に対する割合
 注)最高気温は農林水産研究指導センターの月の平均値

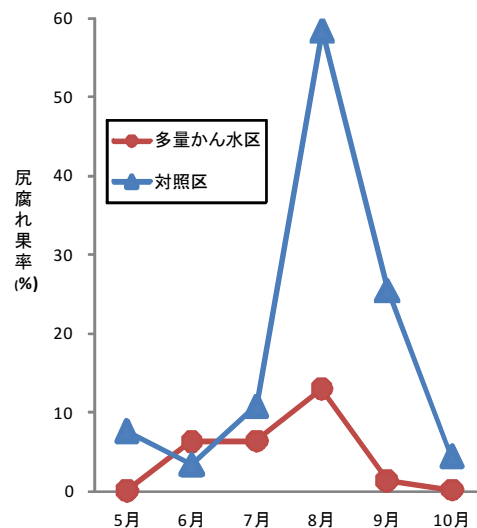


図2 かん水方法の違いによる月別尻腐れ果率の違い(2010年度)
 注)尻腐れ果率は、収穫果数に対する割合

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
多量かん水区	11	172	241	238	266	219	123	1,269
対照区	13	169	172	73	140	134	92	793